

「2020年東京オリンピック・パラリンピック」 開催についての意識調査

— 本学学生の課題を探り、講義の在り方を検討する —

桂 玲 子

1 目 的

2013年9月8日に2020年のオリンピック・パラリンピックの開催都市が東京と決定した。開催地には、日本の他トルコのイスタンブール、スペインのマドリードが立候補していた。

そこで本学学生の招致活動並びに東京開催決定への興味・関心度、観戦志向をはかり、さらに、大会を成功させるための日本の課題をどのくらい発見できるか、というアンケート調査を実施した。スポーツを「観る」・「支える」ことは、「する」とともに将来の健康を左右することが明らかになっている¹⁾。さらに、スポーツ基本法によりスポーツを「する」・「観る」・「支える」人間の育成が求められている²⁾。また、課題を発見する能力はキャリア教育³⁾にもつながる。

この結果から本学学生の課題を発見し、今後の講義内容展開の一助とすることを目的とする。

2 調査の方法

2.1 調査時期

- ①「生活と健康」(全学科2年選択科目 前期) H.25年9月9日
- ②「スポーツ」(教養学科1年 前期) H.25年9月11・12日
- ③「スポーツ」(英文・経済学科1年 後期) H.25年9月18・19日
- ④「桂専門ゼミナール」(生活と健康での回答者を除く)

H.25年9月9日

2.2 調査対象者及び回収率

調査対象者：北海道武蔵女子短期大学学生 550名

回答者：477名 回収率 86% 内訳は以下のとおりである。

2年：生活と健康受講者 153名、回収率 65% 100名

桂専門ゼミナール 8名 回収率 100% 8名

1年：教養スポーツ受講者 221名 回収率 94% 208名

英文スポーツ受講者 87名 回収率 91% 79名

経済スポーツ受講者 83名 回収率 99% 82名

2.3 アンケートの記載方法

選択肢によるアンケート2問 及び 記述式回答 2問

2.4 アンケートの内容

9月8日に2020年のオリンピック・パラリンピック開催地が東京となりました。イスタンブールとスペインとの決戦の中決定となりましたが、このことについての質問に答えて下さい。

- (1) 招致活動について興味を抱いていましたか。○印を付けて下さい

- 1) 興味をもって積極的に情報を入手していたし、東京になるよう応援していた。
 - 2) 興味を抱いていたし、開催地が東京になってほしいと思っていた。
 - 3) 興味は抱いていたが、東京以外の開催地がよいと思っていた。
 - 4) 興味はあったが、それほどまでは感じていなかった。
 - 5) 興味を抱いていない方だった。
- (2) 上記の理由についてなぜなのか文章でお答え下さい。
- (3) 2020年のオリンピック・パラリンピック開催までにどのような課題が存在するとあなた自身感じますか。
- (4) 2020年の東京オリンピック・パラリンピックには観戦しに行きたいと思いませんか。その種目は何ですか。○で囲み、その理由、並びにこのたびの決定について感想を書いて下さい。
- 1) 観戦したい
 - 2) できれば観戦したい
 - 3) 観戦に行かないと思う
 - 4) 観戦しない

3 結果

3.1 オリンピック・パラリンピック招致活動への興味・関心について

全体で51%が東京開催を応援または願ひ、58%が興味・関心を抱いていた。アンケート結果を以下に示す。

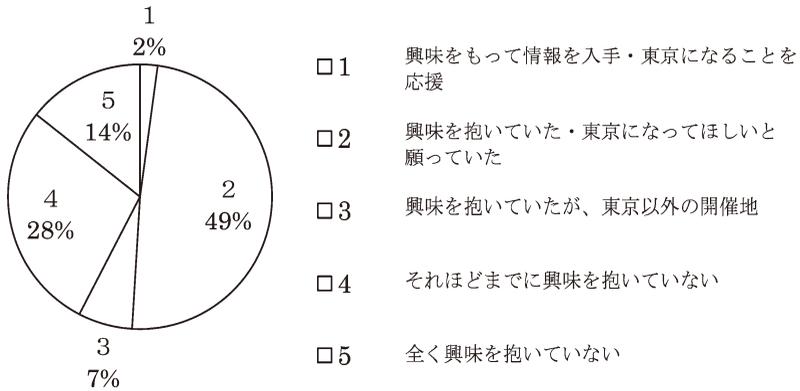


図1 オリンピック・パラリンピック招致活動への興味・関心度

3.2 オリンピック・パラリンピックへの観戦志向とその種目について

全体の71%に観戦志向があった。アンケート結果を以下に示す。

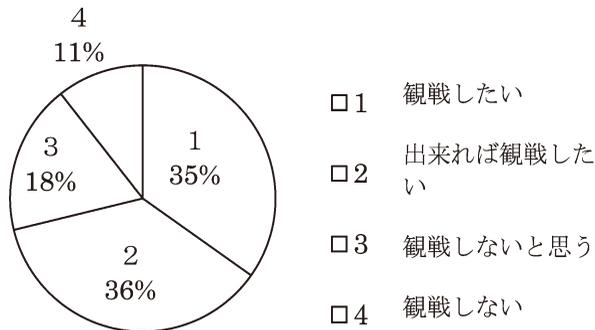


図2 オリンピック・パラリンピックへの観戦志向

観戦してみたい種目の結果を以下に示す。

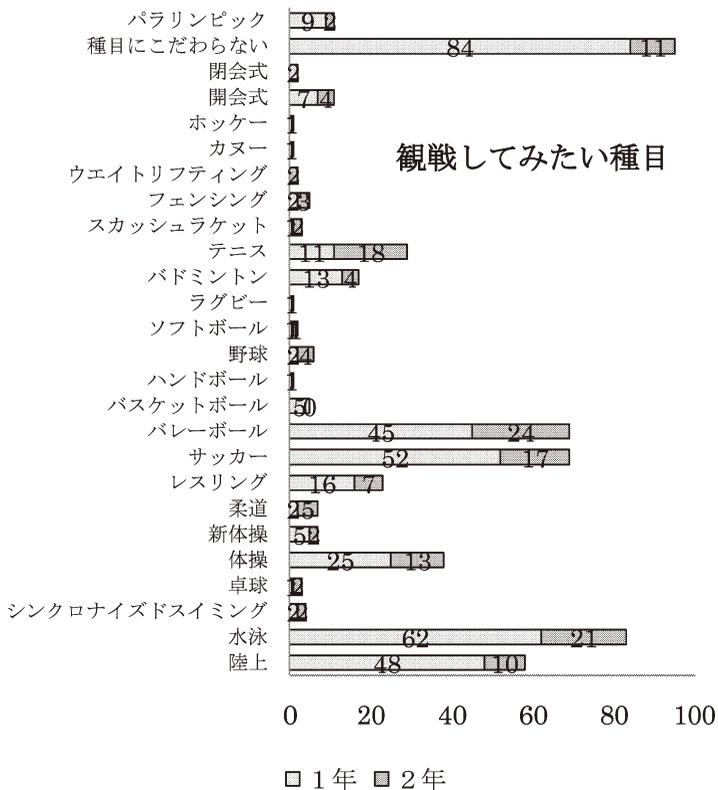


図3 観戦してみたい種目一覧

観戦希望種目を種目別で分類すると、第1位の「種目にこだわらない」を除く上位5種目は、第1位「水泳」、第2位「サッカー」と「バレーボール」、第4位「陸上」、第5位「体操」となった。

下位に現在採用を検討している、野球、ソフトボール、スカッシュラケットがあがった。

4 考 察

4.1 オリンピック・パラリンピック招致活動への興味・関心について

設問1) 積極的に情報を収集し、東京に決定することを応援していた、2) 興味を抱き東京になることを願っていた、3) 興味を抱いていたが東京以外の都市を望む までの回答を興味・関心度が高いと判断することができ、結果は58%となった。設問4) 興味はあったがそれほどまで感じていない、5) まったくない までを興味・関心度が低いと判断することができ、結果は42%となった。

したがって、興味・関心度はわずかに高い傾向を示した。学年別の差異を比較した図4によると、2年の方が興味・関心度が高い。

また、1)～4)までを「知っていた」という領域に判断することができ、結果は86%となった。この結果は考察の4.6で引用する。

〈学年別回答の比較〉

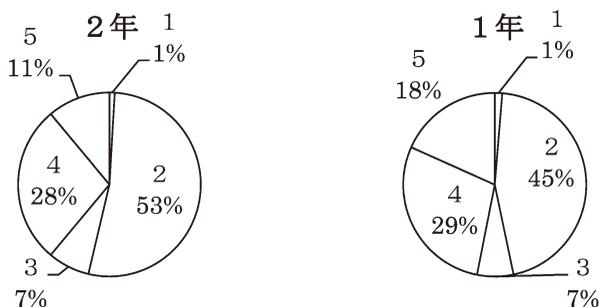


図4 オリンピック・パラリンピック招致活動への興味・関心度(学年別)

4.2 オリンピック・パラリンピックへの観戦志向について

全体の71%に観戦志向があったことは、運動を「観る」・「支える」傾向にあることを示唆している。学年別に比較した図5によると、2年の方がより高い観戦志向が見られた。しかし、相対的に大きな差異は見ら

れなかった。

観戦しない理由を分類すると、ア) 混雑するところには行きたくない
イ) TVで観戦する ウ) 東京は札幌より遠方であるため面倒である
という3点に集約された。

〈学年別回答の比較〉

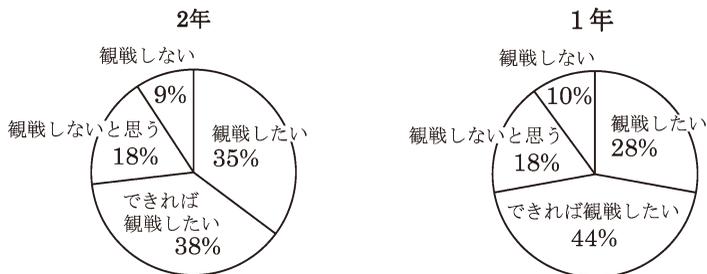


図5 オリンピック・パラリンピックへの観戦志向 (学年別)

4.3 招致活動への興味・関心と観戦志向との関連について

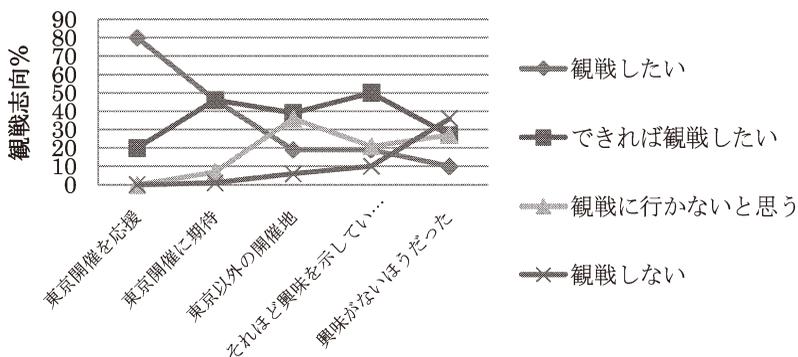


図6 招致活動への興味・関心と観戦志向との関連

招致活動への興味・関心と観戦志向との関係で、招致活動へ興味・関

心の高い学生が観戦志向を示している。このことは、容易に推測された。しかし、着目されるのは、「東京開催を願いながら、観戦しない」と回答したケースがあることと「招致活動に全く興味がなかったのに、観戦したい、できれば観戦したい」と回答したケースがあることである。前者の理由を分類すると、東京開催を歓迎するものの、現地に出向かず TV で見るという理由に集約された。後者の理由を分類すると、ア) 今までスポーツの観戦に興味はなかったが、この機会を活用し観戦志向を高めた イ) 日本の団結力を評価し観戦志向を高めた ウ) パラリンピックへの観戦志向を高めた エ) 札幌での予選に観戦志向を高めた という 4 点に集約された。開催都市決定の情報が提供されたことにより、オリンピック・パラリンピックに興味・関心を高め、観戦への志向が高まったことが推察される。

この様に、情報が提供されてから積極的な行動へ意識が転じるというのは、本学学生の社会的評価とされている、「まじめである」「新しい仕事に対し素直に吸収し、こなしていく」「少し教えたら伸びていく」ということと関係しているのではないかと推察される。

4.4 東京以外の開催地を望む学生の意識について

この回答記述では、85%が東日本大震災の復興、原発問題の終息の未解決を問題視し、残り 15%の回答は、ア) 資金面の問題 イ) 観光を兼ねてマドリード・イスタンブールへ行って見たかった、の 2 点に集約された。

4.5 オリンピック・パラリンピック開催までの日本の課題意識

回答した学生のうち 70%が東日本大震災の復興と原発問題の終息を取り上げ、上記以外の記述は 30%であった。

震災の終息以外の回答記述は以下のように分類された。

- 1) 建設関係：建設関連業者の東京流出、全国各地の環境整備、建設予定会場の環境問題、観光客に対応する宿泊施設の増設、大会後の活用方法の検討
- 2) 交通関係：海外観光客に対応する道路標識、交通網の整備、利用時間帯の混雑防止
- 3) 外交・安全：近隣国との外交問題の解決、テロ対策、国内の事件件数の減少
- 4) 自然災害：各種自然災害への対応
- 5) マナー：日本のマナーを外国人へ伝える工夫、観戦マナーの徹底、日本人のマナーの徹底
- 6) もてなし：海外の言語に対応する人材の育成、海外の生活・食文化に対応するもてなし、対応マニュアルの作成、対応マニュアル以外のもてなしの工夫
- 7) 国民意識：大会を盛り上げる国民意識の向上
- 8) その他：高齢化への対応、電力の確保、日本文化のPR

4.6 オリンピックに関する日本国内の他のアンケート結果との比較

本学学生の意識が一般の意識とどのような差異があるのかを比較検討するために、インターワイヤード株式会社（以下I社とする）が運営するネットリサーチのDIMSDRIVEが実施したアンケートの一部を引用する⁴⁾。このアンケートは、『2020年オリンピック』についてと題し、2020年オリンピックへの「興味」・「招致活動の認知」・その「是非と評価」、「開催予定地の予想結果」、「残り一種目の審議」や「残る競技の予想結果」などについてまとめていた。なお、その調査は2013年8月6日～8月19日にかけて実施され、DIMSDRIVEモニター7,311人（年齢・性別分類なし）から回答を得ていた。

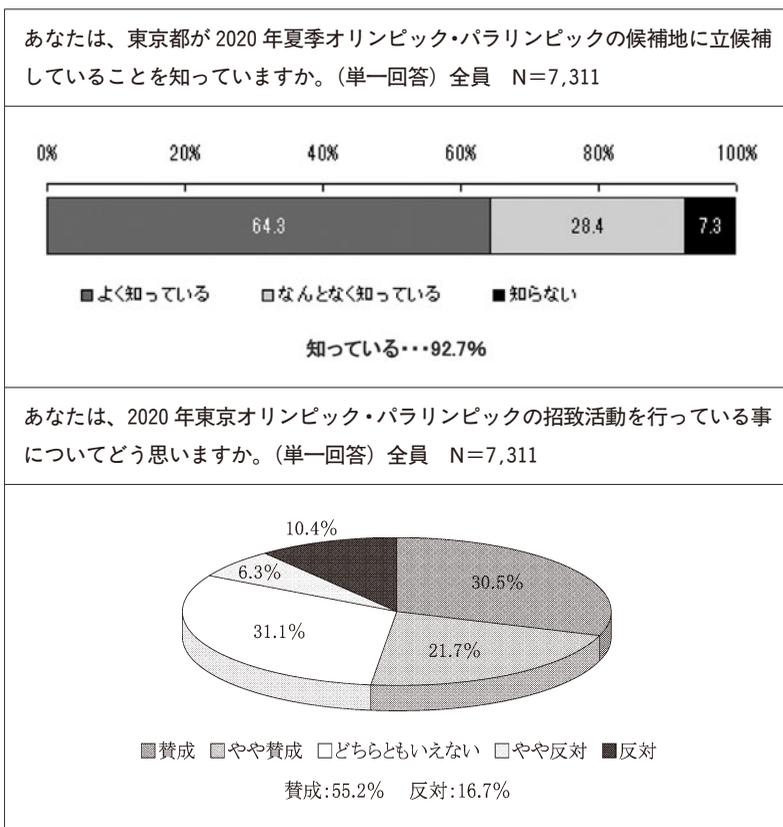


図7 2020年オリンピック・パラリンピックの招致活動について
(DIMSDRIVE (株)インターワイヤード社) 実施のアンケート)

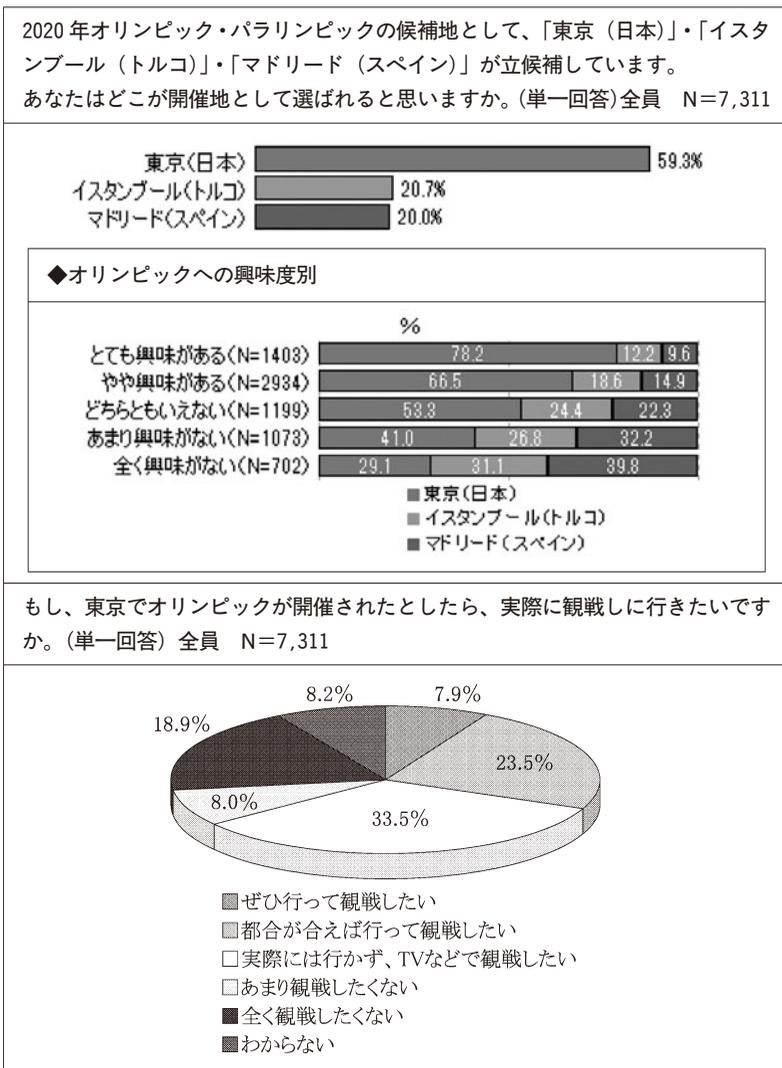


図8 オリンピック・パラリンピックの立候補地とオリンピックへの興味関心の関係、並びに観戦志向 (DIMSDRIVE (株)インターワイヤード社) 実施のアンケート)

I社が実施したアンケートの結果で「招致活動」について「知っていた」と本学学生の「知っていた」とする領域を比較すると、I社の結果は92.7%であるのに対し、本学学生の結果は86%であり、本学学生の方が低位を示した。「観戦志向」について比較すると、I社の結果は31.4%であるのに対し、本学学生の結果は75%であり、I社の調査より観戦志向が高かった。

5 まとめ

本研究は、以下に要約される。

(1) オリンピック・パラリンピック招致活動への興味・関心について

招致活動については、I社が実施した調査と比較して関心度が低い。

講義内容等工夫し、情報提供をする必要があったことが示唆された。

(2) オリンピック・パラリンピックへの観戦志向について

本学学生のスポーツ観戦志向は高く、スポーツを「観る」・「支える」傾向があることが示唆された。また、スポーツへの興味・関心が低い学生もスポーツ観戦志向を高める傾向に変容できることが明らかになった。今後は、さらにスポーツ・運動関連情報の提示方法や内容等検討し、「観る」・「支える」領域にも関与した講義内容に改善する必要があることが示唆された。

(3) オリンピック・パラリンピック開催までの日本の課題意識について

多くの学生が東日本大震災の終息についての課題をあげた。しかし、大会を成功させるためには、さらにそこから深めた課題を発見することが重要であり、そこに着目できた回答は少なかった。梶井らの調査によると課題発見能力と課題解決能力は、社会で短大生に求められる能力の一つとされている³⁾。

そこで、今後は、課題発見能力及び課題解決能力を高めるための講義内容とその方法を検討する必要があることが示唆された。

〈参考文献〉

- 1) 柴田陽介、早坂信哉、野田龍也、村田千代栄、尾島俊之（2011）
「する・見る・支えるスポーツ活動と主観的健康観の関連」運動疫学研究
Vol.13 2011.3
- 2) 文部科学省 スポーツ基本法制定に関するリーフレット（2012）
- 3) 梶井祥子・和田佳子「短大教育の職業的意義——汎用能力を高めるための教授法研究——」北海道武蔵女子短期大学紀要第43号 p.25-60
- 4) ネットリサーチ ディムスドライブ インターワイヤード株式会社
DIMSDRIVE事務局（ディムスドライブ事務局）実施アンケート
『2020年オリンピック』について 2014.1.23 閲覧
<http://www.dims.ne.jp/timelyresearch/2013/130904/>